

下商物語 (その三) 下

姉妹校のはなし

教諭 林 俊行

本校の特色の一つに国内外に三校もの姉妹校があり、それぞれに交流を深めていることがあります。まずは、昭和三十六年に盟約を結んだ鹿児島商業高校ですが、平成二十三年度には盟約締結五十周年を迎えました。盟約締結当時の記録を見ますと、お互いの共通点は①共に市立の商業高校②永い歴史と伝統があり、ほぼ同規模な学校③部活動等が非常に活発④校風が類似(鹿商は全国的にも珍しい公立商業高校で唯一の男子校)などの理由から当時の両校の校長先生が商業教育の全国大会時に「薩長同盟の縁を今後、姉妹校交流会を通じて深めよう」と意気投合されたことから始まります。その年から昭和四十二年度までは毎年春と秋に交流会をお互いに開催し、これ以降は毎年相互に訪問交流することになりました。交流会の内容

は、主に部活動硬式野球やサッカーなどの親善試合によるものが中心ですが、生徒会の交流会なども積極的に取り組まれ現在に至ります。古く歴史を紐解きますと、本校と鹿商との関わりは、明治四十三年から大正二年までの修学旅行で本校が鹿児島島に向いた際に、当時は現在のような旅行幹旋業者がない時代で鹿商から旅館の幹旋や市内観光の計画までのご配慮をいただき非常にお世話になり、宿舎前に両校生徒が整列して歓迎の挨拶を交わしたようです。当時の記録文には、「流石に質実剛健な薩摩健児」とあり、当時は本校も男子校ではありませんでしたが鹿商生徒の熱い振る舞いには感慨無量であったようです。平成七年の夏に両校が甲子園大会に出場した際には、姉妹校の縁で両校で熱い応援をし

て話題となったことが、つい先日のように思い出されます。近い将来、再び両校で甲子園を大いに湧かせたいですね。国内の姉妹校は鹿商だけなのですが、海外には二校の姉妹校があります。その一つは、韓国釜山広域市にある開成旧釜山商業高校です。昭和六十一年に下関市と釜山市が姉妹都市十周年の記念として姉妹校の盟約がなされ、その年から両校との交流が始まりました。海外でもあり多くの生徒による交流は難しいのですが、毎年二名程度の先生方と三名から四名の生徒による交流がなされています。韓国でも屈指の歴史のあった釜山商業高校は、開校以来男子校でしたが平成六年に初の女生徒が入学したのを始め、最近の進路状況下の元に平成十七年に商業高校から進学高校(開成高校)へと改編されましたが、歴史ある交流は現在も続いています。言葉の違いはあっても若い生徒同士はすぐに打ち解けあい大変貴重な体験交流をしています。ちなみに、平成五年の十二月には下商の教職員会の(名池会が当時の釜山商業高校を訪れ熱烈歓迎していただきました。寒い時でしたが、非常に温かい歓迎を受けたことが今でも忘れられません。最近では、両校の同窓会・PTAの方も交流会に同席されて学校全体での交流の場となっています。また、中国にも昭和五十九年十一月に、青島交通職業高級中学校(盟約時は青島市第一職業中学校)との盟約が結ばれ、先方(教職員の方)から現在まで、五回程度本校にお出でいただき交流を行いました。あまりにも遠方などの距離的な理由から数年前までは生徒作品の送付による交流程度となり現在はあまり行われていません。

これからもこの意義深い姉妹校交流会を通じて、お互いの良いところをしっかりと吸収して刺激を受けながら、今後とも大いに切磋琢磨して両校の歴史を刻んでいきたいものです。改めまして、姉妹校交流会に よって培われた「絆」の大切さを感じます。



下関商業高等学校 創立 1884年10月



鹿児島商業高等学校 創立 1894年10月

開成高校交歓会

in釜山 12/18 ~ 12/20

